

お知らせ

九月例会

期日…立教 185 年 9 月 25 日
時間…15 時 30 分受付 16 時開始
会場…教庁 4 階講堂

報告

七月例会

去る 7 月 25 日、教庁 4 階講堂において「7 月例会」を開催。出席は 21 教区、80 直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】

・山形 7 月 2 日 教務支庁
葛西直己副委員長出向 18 名

【直属学生層育成者講習会】

・牛込 7 月 2 日 大教会
茶谷良佐委員長出向 85 名

・都 7 月 7 日 大教会
越智久輝委員出向 40 名

・東本 7 月 16 日 大教会
茶谷良佐委員長出向 200 名

業務記録

《立教 185 年 7 月 16 日～8 月 15 日》

・東 7 月 20 日 大教会
清水学委員長出向 70 名

・愛静 7 月 20 日 大教会
勝村宏樹委員出向 90 名

・中背 7 月 24 日 大教会
茶谷良佐委員長出向 80 名

7 月 19 日 事務局連絡会

24 日 担当者活動部部会

25 日 委員会 例会

編集部部会

26 日 人材育成部部会

研修会チーム会議

27 日 まなびばチーム会議

8 月 4 日 春の学生おちばがえり

6 日 プロジェクトチーム会議

6 日 学生生徒修養会 高校の部

スタッフ直前研修会 (7 日)

8 日 学生生徒修養会 高校の部 (12 日)

9 月開催「高校生の集いまなびば」会場一覧

教区	開催日時	会場	担当者	連絡先
長野	9 月 23 日～24 日	教務支庁	本島常光	090-9838-1044

学生担当者報 9

発行/天理教学生担当委員会 発行責任者/茶谷 良佐 編集責任者/辻 雄二郎

Vol. 427

立教 185 年
2022 年
8 月 25 日発行

TEL 0743-63-1511(内線 5817) 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780

E-mail tsa@tenrikyo.or.jp TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp



8 月 8 日より「学生生徒修養会高校の部」が開催されま

「違いを大切にする」

した。私は 3 年生男子寮の寮長を務めさせていただき、生徒たちの喜ぶ顔や感動の涙を見て、3 年ぶりに開催できたことに、大きなやりがいと喜びを感じました。

印象的だったことは、彼らの豊かな個性が光っていたことです。寮では毎晩の全体行事で、一分間スピーチが行われましたが、彼らの話し方や話す内容がとても個性豊かでした。自分の思いをはっきりと言葉にできる子もいれば、普通に話すとき緊張して上手くしゃべれないので、落語風に話す子や、歌を歌う子、また、緊張で立っておられず、演台の下に座り込んで話す子もいました。しかし、どの生徒も

自分の素直な心の内を語ってくれました。彼らが発する純粋な言葉にはとても力があり、強く心に響きました。ある生徒に、学修のどこが楽しいかと質問すると、「自分を出せることが楽しい」と答えてくれたことも印象的でした。

学生担当委員会では平成 2 年度から、学生層育成のプログラムの一つとして、グループワークという手法を活用しており、もちろん、学修でも使われています。グループワークを道の学生層育成に取り入れた第一人者である宮崎伸一郎先生は、「グループワークは、それぞれの違いを大切にすることが一番のテーマである」と話されていました。グループワークによって、メンバーを信頼し、心を開いて自分の内面を語り、それをメンバー

人材育成部委員

越智 久輝

が受け止めてくれるという環境のもとで、彼らが自分らしさを表現することにつながったのだと思います。これはもちろん、おちばで親神様、教祖の親心を頂戴してこそですが、グループワークの研修を重ねたスタッフが、たすけ心を持って親身に学生に寄り添いお世話取りに当たってくれたことも大きな要因だと思います。

11 月 28 日、29 日には、「育成に役立つ研修会」が開催されます。グループワークの理解を深めたり、若年層への関わり方を学べる絶好の機会ですので、教区直属の人材育成の上に、ぜひご活用いただければと思います。

令和 4 年 学生担当委員会 活動方針 「共に教祖のようぼくに育つ」

「立教百八十五年 学生生徒修養会 高校の部」開催報告

3 年ぶりに真夏の親里において、「立教百八十五年 学生生徒修養会 高校の部」を8月8日より12日まで開催しました。今年は579人の受講生を迎え、事前に研修を重ねた356人のスタッフが世話取りにあたりました。

今年の「学修 高校の部」では、マスク必着や常時の換気、朝夕の体温測定、食事時の黙食、看護師の常駐、各所、各部屋の消毒といった徹底した感染対策や水分・塩分補給体制を充実させた熱中症対策を講じた上で開催いたしました。

3 年ぶりの開催で全受講生が初受講となることから、全学年統一のプログラムで実施いたしました。

スタッフ一同は6日より直前研修会を行い、7日夕づとめ後の係員結団式では表統領中田善亮先生よりご挨拶をいただき、参加する受講生はもちろん、係員も学修を通して親神様、教祖にお育ていただけの機会であること、また、たった一声が相手にとって貴重なものになるかもしれない、おちばでの声掛けはそんな力

を持つているといった、こまめに「声を掛ける」ことの大切さをお話くださいました。さらに、感染症対策についても触れ、起こりうることを想定して準備を怠らないようにと注意を促されました。その後、係ごとでねらいを行い、受講生を迎える心を作らせていただきました。

期待と不安の中、翌日より受講生を迎え、いよいよ本期間が始まりました。各班には受講生にとって、兄・姉代わりとなる男女カウンセラーが付き、各寮でウォーミングアップやオリエンテーション等を行い、心がほぐれてきたところで全ての受講生が一堂に会して、開講式を執り行いました。その席上、学生担当委員会担当常詔田中善吉先生より、「この度おちばにお引き寄せいただいたお互いは、親神様のお働き、教祖の導きをいただいていたのであって、これから始まる5日間をより良きものにしてみたい」という激励のご挨拶をいただきました。

期間中、受講生は「レクチャー」「おつとめ勉強」「神殿案内」を通して教理を学び、実践するとともに、学年別・

寮別行事を通して、学修で出会った仲間たちと支え合い、たすけあう中でその喜びを味わいました。

開講式で表統領先生は、「学修を通してたくさんのことを学んでもらったが一番ありがたかったことは5日間おちばで過ごしてくださったこと。そして、おちばは人類のふるさとであるので、またおちばに帰ってきた時には人間のをやである親神様、教祖に元氣な顔を見せてもらいたい。次の機会があれば学修に参加していただければありがたい。信仰というのはいざというときに役立つものではあるけれども、普段の行いが大事であるということを中心に留めておいてもらいたい」とご期待くださいました。

開講式後の退寮式では、心を通わせ、共に5日間を過ごしたカウンセラーと受講生が別れを惜しみ、涙する感動の場面が各寮で見られました。

スタッフ一同はこの度のご用を務めたことを吉祥に、これからも学生と共に育つ成人の努力を積み重ねていくことを誓い合いました。

最後に、この度は真柱様、奥様、大亮様の親心を賜り、また各直属学生担当委員会様方の大きなご理解とご協力のもと、「学生生徒修養会 高校の部」をつとめ終えることができましたことに、深く感謝申し上げますとともに、心より篤く御礼申し上げ報告いたします。

「立教百八十五年 天理教学生会 夏期リーダーの集い」開催報告

天理教学生会では、8月6日、7日の2日間に渡り、中河大教会信者詰所を会場に「立教百八十五年 天理教学生会夏期リーダーの集い」を開催し、総勢107名の学生が参加しました。（教区20団体43名、直属18団体21名、スタッフ43名）なお、参加者は新型コロナウイルス感染症対策のため合宿体制は取らず、各詰所などから参加しました。

1日目は、まず天理教学生会発足の経緯や歴史を学び、その後は今期の活動方針を基に四月からのそれぞれの活動を振り返り、今後こういった活動ができるか意見交換をしました。

学生担当者報

2日目は、天理教青年会副委員

長 前川治輝氏より「かしもの・かりもの」をテーマにした講話を聞き、その後は境内地にて清掃などのひのきしんを行いました。また、午後には9月19日に開催予定の「道の学生ひのきしんDAY」に向けて、グループ毎に「ひのきしんの魅力を伝えるための新聞」を作成しました。そして、それぞれの地域に住む学生に、ひのきしんの素晴らしさをどう伝えるかについて話し合いました。

参加した学生たちは、今回の夏期リーダーの集いを通してひのきしんの大切さを再確認し、「道の学生ひのきしんDAY」にて一手一つに感謝の心でひのきしんを行う心づくりをしました。

青 空

初めて心から神様に向き合ったのは中学生の頃です。

教会にも来ていた幼なじみの理不尽な出直しに、神様へいろいろな感情の波を向けました。

高校一年生になり、学生生徒修養会を勧められ、渋々参加しました。初めて心の内を聞いてもらい、涙が止まらず、班の子も一緒に泣いてくれました。

心が救われた気持ちと同時に、いつか悟りつながら、悟り結び付く、その日までずっと疑問を持ち続ける大切さを学びました。

恩返しができると思い、学修のスタッフの御用を受けさせてもらいました。学生さんが一言、喜びだけでなく、悩みや疑問を話してくれた時、「当時の自分がいるありがたさ」を感じます。

毎回学修が終わる度に「こう言えばよかったなあ。あそこはこうすれば」と後悔、反省ばかりですが、「学生さんと共に育ててもらっているんだ」と神様への感謝につながっています。

これからも周りに対して心を低く持ち、感謝しながら、神様に喜んでいただけるよう励みたいと思います。

人材育成部本部スタッフ 松田道和